

平成29年6月2日

浜田市議会議長 西田清久 様

産業建設委員会
委員長 笹田 卓



産業建設委員会視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

記

1・期 間 平成29年5月15日(月)～5月17日(水)

2・参加者

笹田卓委員長 飛野弘二副委員長 原田義則委員 牛尾博美委員
牛尾昭委員 布施賢司委員 串崎利行委員
西田清久議長同行
議会事務局 庶務係長 鎌原浩治

3・視察先及び調査項目

(1) 岐阜県高山市花岡町2丁目18番地 高山市議会

平成29年5月15日(月) 午後2時50分～5時00分

(2) 調査項目

- ・歴史的資源を活かしたまちづくりについて
- ・観光のまちづくりについて

4・視察先説明担当者

(1) 観光のまちづくりについて

説明担当者 高山市商工観光部観光課 藤原一也係長

高山市海外戦略部海外戦略課 江尻英夫係長



①・視察先説明担当者

ア．観光のまちづくりについて

説明担当者 高山市商工観光部観光課 藤原一也係長
高山市海外戦略部海外戦略課 江尻英夫係長

イ．主な項目

- (a) 高山市の概要
- (b) 飛騨高山の観光振興の経緯
- (c) 国際化への取り組み
- (d) 海外戦略の必要性
- (e) 高山市の海外戦略

②歴史的資源を活かしたまちづくりについて

説明担当者 高山市 基盤整備部都市整備課 尾前隆治課長



高山市市役所内



高山市議会 議場にて

③・視察先の説明内容

ア．観光のまちづくりについて

(a) 高山市の概要

歴史的には1586年豊臣秀吉の命を受けた金森長近が飛騨の国3万3千石の国主となり1588年から16年かけ高山城を築城と同時に城下町、寺院群が整備され、1692年金森氏の転封により、飛騨の国が江戸幕府の天領となり、1868年まで176年間江戸幕府は25代の代官、郡代を派遣し飛騨の国を支配してきている。現在の地勢は、面積2,177.61k㎡で日本一広い面積を有し92.1%は森林である。4縣市町村と隣接し北東部には北アルプス、南東部には御嶽山西には白山、連峰が連なり二つの国立公園を有する。

平成29年4月1日現在の人口は89,265人、高齢化率31.5%、観光客入込数は平成28年、451万人、この内10%を超す46万人の外国人観光客を受け入れており、海外戦略が大きな力を発揮しているとの説明でした。

(b) 飛騨高山の観光振興の経緯

- ・昭和9年高山本線全線開通
- ・昭和38年暮らしの手帳で飛騨高山を「山のむこうのまち」と紹介。

- ・昭和45年国鉄キャンペーン「デスカバージャパン」により心のふるさと飛騨高山として全国的に脚光を浴びる。
 - ・昭和57年社団法人「飛騨高山観光協会」が発足。
 - ・昭和61年市政執行50周年金森公領国400年記念事業実施。
 - ・昭和63年88飛騨・高山食と緑の博覧会開催
 - ・平成4年飛騨・高山天領300年記念事業実施。
 - ・平成6年高山本線全通・高山駅開業60周年記念事業実施。
 - ・平成11年飛騨・高山コンベンションビューロー設立。
- このような事業を大切にし、どのようにして観光に結び付けていくか検討を絶えずしてきたとの説明がされました。

(c) 国際化への取り組みについて

○友好都市等の取り組み

- ・昭和35年 アメリカ・コロラド州デンバー市と姉妹都市提携
- ・昭和61年 国際観光モデル地区に指定
- ・昭和61年 国際観光都市宣言（市制施行50周年）
- ・昭和62年 飛騨高山国際協会設立
- ・平成11年 国際会議観光都市に指定
- ・平成14年 中国・雲南省麗江市と友好都市提携
- ・平成19年、21年 ミシュラン・ガイドブックで三つ星獲得
- ・平成24年 ルーマニア・シビウ市と友好都市提携
- ・平成25年 ペルー・ウルバンバ郡と友好都市提携

このように友好都市提携を主眼に取り組みを進められ、基本理念として「住みよいまちは、行きよいまち」のスローガンのもと、平成8年から、モニターツアーを実施し、障害を持たれた方や外国人からの生の声を聞き、行政に取り入れてきたとの説明を受けました。



藤原、江尻係長による説明の様子



高山祭の屋台を曳く屋台組の人々

○受入れ体制の整備について

- ・ビジット・ジャパン案内所の設置
- ・誘導案内（多言語併記）の整備

外国人が安心して一人歩きできる環境づくりを目指し、多言語併記の誘導案内板を整備してきたとの説明を受けました。

- ・外国人観光客等の受入れマニュアル作成
「もてなしの匠心得帳」を作成して、市内の宿泊・飲食関係事業者等に配布し、研修を実施してきたとの説明を受けました。
- ・外国語パンフレット等作成
英語(2種類)、韓国語、中国語、フランス語、タイ語、スペイン語、イタリア語の8言語が作成され外国人にやさしい取り組みがされています。
- ・散策マップ作成
市街地の散策マップを英語、中国語(2)、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、韓国語、タイ語、ヘブライ語の10言語で作成しているとの説明を受けました。
- ・おもてなし国際化促進事業補助金
民間事業者が外国人観光客を受け入れるため自社パンフレット、看板等の作成に対して補助金が交付される制度を整備しているとの説明を受けました。
経費の3分の1以内の額で、一事業あたり10万円まで
- ・消費税免除制度の活用促進
消費税免除制度に関する研修会等を開催し免税店舗の増加を図り、外国人観光客の消費拡大を図る努力がされていました。
- ・無料公衆無線LANの整備
高山市内を訪れる観光客に対して「インターネット接続環境」や「観光・緊急情報」を提供できるよう、まちなかに公衆無線LANが整備されています。

○通訳ガイドの育成・確保

- ・観光案内人の配置
外国語対応の観光案内人を配置し、外客への観光案内を実施されています。
- ・ボランティア通訳の活用
ボランティア通訳による市民と外国人観光客等との交流の促進、観光案内のための研修会が実施されています。
- ・特例通訳案内士の養成
平成27年度に中心市街地特例通訳案内士の養成講座を実施し当該区域内において有償での通訳ガイドが可能となり旅行者の滞在期間の延長、消費拡大の促進に寄与していると説明を受けました。

○海外へのPR活動

- ・観光ホームページの多言語化
平成8年～情報発信がされています。
- ・日本政府観光局の海外事務所に外国語パンフレット設置しているとの説明でした。
- ・海外で開催される旅行博覧会に参加しています。

(d) 海外戦略の必要性

人口減少、少子高齢化、広域的なつながり、グローバル化の進展の中、様々な分野に横軸を通しそれらを統括し、海外に向けた施策を総合的に推進するため、平成23年海外戦略室を設置し、国際観光、海外販路開拓、多様な交流の基、外貨の獲得、交流人口の増加、地域経済の活性化に向け取り組まれています。

(e) 高山市の海外戦略

海外からの誘客促進、海外への販売促進、海外との交流推進を基本に海外戦略課職員が次の事を共有して進めているとの説明がされました。

- ・先人たちの取り組みがあり今がある。今できることを精いっぱい取り組む事。
- ・民間事業者との連携が必須。最前線に立って一緒に活動する。
- ・海外のニーズの把握に努めるとともに、海外の方にこの地域ならではの文化を知っていただく。
- ・広域連携が必要。他都市の魅力も同時にPRする。



説明を聞く浜田市議会の皆さん



外国人観光客で賑わう古い町並み

イ. 歴史的資源を活かしたまちづくりについて

高山市では、城下町や周辺の農山村集落の歴史的景観を保存し、将来に向けての活用を計画されてきました、全国的にこのような景観保存思考が強まる中で平成20年5月地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律が国において成立しました。高山市の景観対策は、この法律の目的とするところと一致する点が多く、この法律で定める「各自治体における計画策定」の制度を活用し高山市における歴史的風致の維持向上を維持するため「高山市歴史的風致維持向上計画」を策定し、平成21年1月19日に国の認定を受け本格的に推進しているとの説明でした。

(a) 高山市の景観計画について

景観法に基づいて策定する、景観に関する総合計画。対象区域や景観まちづくりの方針、良好な景観形成の制限内容等が定められ平成18年12月に策定されています。主な景観形成の中身は、景観形成の区域、特に重点的に良好な景観づくりを推進するため景観重点区域を

指定し地域の特性に応じた景観づくりを推進しているとの説明でした。又、景観形成の目標として自然や歴史、文化の保存と継承、格調高い都市景観の創出、個性あるまちづくりの推進などがされており多くの点で参考になりました。

(b) 具体的な景観計画の取り組みについて

- ・ 建築物の色彩基準
- ・ 建築物の高さの基準
- ・ 景観重点区域の指定など
- ・ 特に景観重点区域における制限は厳しく示されており、例えば屋外広告物等については下記のような基準が設けられ厳しく規制がされており、市民の皆さんの理解が重要だと感じました。
- ・ 地色には原色を使用しない。
 - ・ 文字色は2色以内とする。
 - ・ 原則として木製とする。
 - ・ 大きさは、1壁面あたり5㎡以内とする。
 - ・ 電光掲示板は設置しない。
 - ・ 屋上には設置しない。

○重要伝統的建造物群保存地区については、歴史的な町並みに特化した景観基準が示されており並々ならぬ努力のあとを伺う事ができました。

- ・ 町家のスケール感を意識した面積限度の設定
- ・ のぼり旗の設置を禁止
- ・ 高さ50cm以上の商品モニユメントの設置を禁止
- ・ 電光掲示板や回転灯の使用禁止



尾前課長の説明の様子



城下町

- ・ 景観重点地域における届け出制度が制定されており、景観重点区域において行う行為について、一定の規模を超える場合は市に届け出を行う必要があるなど厳しい規制がかけられていました。
- ・ 景観重要建造物の指定について
地域の良好な景観形成に重要となる建造物を「景観重要建造物」に指定する基準、方針なども示されており、参考に成りました。
- ・ 景観に配慮した看板について

景観にふさわしい看板を設置する場合及び、ふさわしくない看板を撤去する場合に補助金を交付する制度も取り入れられており、景観に対する強い思いが表れているように感じました。

- 前景観の向上対策について

平成29年度の駅周辺整備事業の完了を前に、歴史的な町並みや自然と調和した、美しく品格のある景観の形成を駅前地区において実現するため景観に配慮した看板の設置が重点的に促進されており、高山市の玄関にかける思いを強く感じました。

- 建造物の修景について

市街地景観保存区域において、一定の基準を満たす建築物の新築、改築、修景等を行う場合補助金を出す仕組みが整備されていました。

- 景観阻害物の除去について

市や地域住民の歴史的な景観を重視する流れに企業が呼応し、良好な景観を阻害していた通信施設の鉄塔や銀行の屋上看板などが、業者の皆さんからの反対意見も無く撤去されているとのことであり、非常に協力的だと感じています。

- 事業者へのアプローチについて

市や景観町並保存会との協議により進められている。

- 歴史まちづくりについて

周遊ルート周辺の整備
保存会活動の活性化
無電柱化事業
専門部会の取り組み



電柱撤去前



電柱撤去後

このような事業を通じて、良好な町並み景観の形成により観光客の往来が増え、まちの回遊性が向上したのではないかと説明を受けました。



景観阻害物除去前

景観阻害物除去後

(c)・感想

浜田市を7時に出発し広島駅から新幹線にて名古屋へ高山駅に到着したのは14時10分でした、まずビックリしたのは観光客の数、その中でも外国人は5分の4程度を占めており、なぜこんなに外国の方が多いのか唖然としました。市内を見ても多くの外国の方が買い物などしている姿を見て、市としてどんな施策をしているのか、大変興味をもって市役所を訪問させていただきました。

市役所の中も非常にきれいに整頓されており、それぞれの課もオープンで、これなら市民の方も気易く物事が相談できるのではないかと、第一に感じました。我々調査項目の一つ目「観光のまちづくり」について担当者から説明を受けました。

その中で、特に注目していました、平成28年の観光客の入込客数は451万人前年対比4%増、外国人観光客46万人前年対比2.7%増と入込客の10%以上が、外国の方であるとの話を聞き、その戦略について話を聞く事ができました。

その中で、もてなしの心を大事にし、受け入れ体制に力を入れておられる事を感じました。海外戦略課職員などの配置など、あらゆる施策が取り入れられており、感銘を受けました。そのため観光客数の増加で宿泊業の業績が非常に好調で飲食や土産物の消費額についても前年を上回るとの説明でした。今後はさらに消費額や景気が上向くように情報通信端末の活用などで事業者の情報発信や商品の高付加価値化、ファンの獲得に取り組むよう、柔軟な経営感覚も必要であるとの話を聞く事ができました。又高山市はインバウンドは30年の歴史があり、今迄まいてる種を大切にしている、よそからこられた方のいいものを吸収する、味や価値を再認識する事が大事であると云う説明を受け、多くの事を勉強できたと思っています。



古い町並



祭り屋台

次に調査項目の二つ目「歴史的資源を活かしたまちづくりについて」飛騨山脈に代表される、雄大な自然に囲まれた江戸時代の面影を残す古い町並みや、春と秋の高山祭など歴史と文化が息づく町「飛騨高山」昔からの景観を残す高山市の取り組みは市民の皆さんの限りない努力と、力づよい想いに支えられ推進されている事が大きな力になっているとの印象を受けました。建築物の色彩基準、建築物の高さの基準、景観重点区域の指定、重点区域の制限、景観阻害物の除去、無電柱化事業、など、どれをとっても市民の協力なくしてできないものばかりですが、市民の反対の声は無いとの説明でした。むしろ市民の皆さんが町並み保存会議を設置するなど、非常に協力的であるとのお話を聞き感銘しました。浜田市においてもこのような歴史まちづくりの保存活動の活性化の機運が高まり新しい取り組みが始まる事を期待したいと思います。

(2) オークヴィレッジ株式会社

①調査項目

ア. 会社概要及び活動について

オークヴィレッジと浜田市、島根県西部山村振興財団が連携協定を締結し、浜田市域の森林整備の過程で伐採する広葉樹を木工用材として活用している。

また、浜田市の木材や木製品のブランド化を推進し、人材育成を通して地域産業を活性化にも貢献している。



加工製品の説明



木材の説明



漆塗りの作業見学



木材の加工見学

(3) 水戸市議会

①調査項目

- ・歴史まちづくりの取り組みについて
- ・市民ボランティア
- ・「歴史アドバイザー水戸」について
- ・水戸公設卸売市場について

ア. 水戸市の概要

茨城県の総人口 296 万人。県庁の水戸市は、茨城県中央のやや東部の太平洋に近接し東京から特急 65 分・常磐自動車道 110 分の位置にあり、面積 217 km² 人口 27 万人で、甚大な人的・物的被害を受けた平成 23 年 3 月の東日本大震災からの復興が着実に進み、市民生活も落ちつきを取り戻しつつある。

イ. 歴史まちづくりの取り組みについて

天下の魁・水戸にふさわしい風格ある歴史まちづくり

～ 来て、見て、楽しめる魅力ある交流拠点の形成を目指して～

○歴史まちづくりにおける 4 つの重点地区を決定

- ・弘道館・水戸城址周辺地区
- ・偕楽園周辺地区（日本 3 大名園）
好文亭など現存する歴史的建造物の保存修理、表門の周辺整備、土塁整備、園路整備、植栽整備等。
- ・保和園周辺地区
国指定重要文化財「八幡宮拝殿」の保存修理、歴史的風致形成建造物として指定
- ・備前堀周辺地区
横山大観生誕の旧酒井家屋敷地の土地の一部取得、建造物（門、塀、等）の設置、顕彰碑、案内板などの整備、備前堀の持つ歴史と調和した和風による統一感のあるまちなみの形成に寄与する行為に対する助成金の交付

そしてそれぞれの重点地区の特徴を活かした「視点」を持って計画推進、保

存整備していく

弘道館・水戸城周辺地区では誰もが水戸城を感じることの出来る歴史的空間づくり
水戸城跡の魅力資源を繋ぎ、楽しく歩きたくなる回遊性の創出
歴史的資源や回遊空間の保全・活用による、市民や観光客の交流拠点づくり

このような視点を持って現在、下記の日本の古くからの藩校・学校・私塾など4箇所が一体となって、平成27年、文化庁から「日本遺産」に認定され、現在「近世日本の教育遺産」の世界遺産登録に取り組んでいる。

茨城県水戸市・・・弘道館（こうどうかん）

栃木県足利市・・・足利学校（あしかが）

岡山県備前市・・・閑谷学校（しずたに）

大分県日田市・・・咸宜園（かんぎえん）

○歴史のまち水戸のブランドイメージ確立にむけて

・世界遺産登録をめざすにふさわしい、魁のまち・水戸のさらなる発展のシンボルとなる、歴史まちづくりを総合的に推進していく・・・知名度・魅了度をどうやって増していくかが課題

質問； 偕楽園は当初から無料だが維持、管理などコスト的にはどうか？

答弁； 偕楽園は茨城県所有管理なのでコストなどについては水戸市ではわからない。ゆくゆくはこれらを水戸市所有管理になればと思っている。

質問； 水戸市の景観についての取り組みは（景観条例をつくっているか）？

答弁； 水戸市内に高層ビルが出来た事で水戸市に景観条例が作られた。歴史的なまちを保存していくことはしっかりやっている。

質問； 観光案内板の統一などどうか、整備されているか？

答弁； 4箇所の重点地区については、それぞれ整備しつつある。

質問； 世界歴史遺産登録をめざしておられるが四市の繋がりや徳川家の関係か？

答弁； これは徳川家でなく、それぞれの都市が個々に世界歴史遺産について手を挙げられていたが、文化庁の方から「4つの都市で一緒にやったらどうか」というアドバイスを受けたので四市で申請している。しかしこれまでの実態として暫定で申請しても10年かかっているのではなかなか難しいが暫定をめざしてがんばっている。

質問； 水戸市には歴史的な建物などたくさんあるが、策定の過程については？

答弁； 平成12年に国の認定を受けた。国の補助を受けるために計画を策定した。

質問； 市民との話し合いはされたのか？

答弁； パブリックコメント・話し合い・懇談会などして合意を得ながら進めた。

○所感

石見浜田藩の第4代藩主 松平武聡(まつだいら たけあきら)公は常陸水戸藩主、徳川斉昭を父とし、徳川慶喜の異母弟にあたり、水戸市は実家とでもいっていいほど関係の深い所だ。水戸市は昭和初期の時代から市中心部の歴史的建物や神社・仏閣・堀・偕楽園などの「風致地区」として保存と規制に取り組んできた。古民家や町並みなどまったく保存・維持にも取り組んでこなかった「浜田」と違って数多くの歴史的な建造物などが多数ありその取り組みは世界遺産への想いに見られるように私たちの考えとは遠く及ばず、異次元の世界だ。とはいえ、浜田市には保存し、守っていかねばならない歴史的建造物や多くの遺産もある。改めてその意義と意味を理解して、維持、保存、PRしていく事に浜田市は取り組まなければいけないことを痛感した。

ウ. 市民観光ボランティア「歴史アドバイザー水戸」について

名称	市民観光ボランティア「歴史アドバイザー水戸」
会員数	67名
設立	平成12年8月
事務局	会長宅
設立の経緯	平成10年の大河ドラマ「徳川慶喜」

活動内容；

- ・観光イベント等の観光案内（偕楽園・弘道館）あじさいまつりなどを中心に観光案内をしている。
- ・平成27年度実績 案内件数 4,298件 （案内客数24,148人）
活動延人数 2,061人
- ・人材育成 スキルアップのため研修会、新人研修会、おもてなし県民大会参加。 視察研修、など
- ・会議の開催 総会、定例会（月1回）、役員会
- ・運営会員の会費 2000円×68名を収入の軸としている

行政などとの連携では、コンベンション協会からまつり、イベントへの参加で個人に旅費相当分として1日1,000円の報償費を手当てしている。また協会がユニフォームを支給している。

エ. 水戸市の観光事業の概要

(a) 観光に関する予算について

当初予算ベース 合計 2億2188万円

(b) 組織体制について

観光課・・・15名（職員12、嘱託2、臨職1）

水戸観光コンベンション協会・・・13名（職員8、嘱託5）

市からの派遣職員2名(次長兼コンベンション係長、コンベンション係員)

(c) 水戸コンベンション協会について

名称；一般社団法人 水戸観光コンベンション協会

設立； 1970年（昭和45年）

会員数； 349団体

○主な事業

- ・観光客誘致及び宣伝広報（HPやSNSによる情報発信、観光キャンペーン）
- ・観光客受け入れ態勢の充実とおもてなし意識の高揚（ボランティア団体への支援など）
- ・コンベンション事業の推進（営業活動、情報の収集と分析）
- ・インバウンド観光の推進（観光情報の発信、体験事業に実施）
- ・水戸観光案内の運営（水戸駅案内所の観光客対応）
- ・広域観光事業の推進
- ・観光諸行事の開催及び関連事業への支援協力（黄門まつり・梅まつり）
- ・収益事業の運営（駐車場・レンタサイクル・好文カフェ）

水戸市補助金 7630万円（平成29年度）

○観光入込客

- ・平成28年度 3,744,000人
- ・宿泊 480,667人
- ・外国人宿泊 32,743人

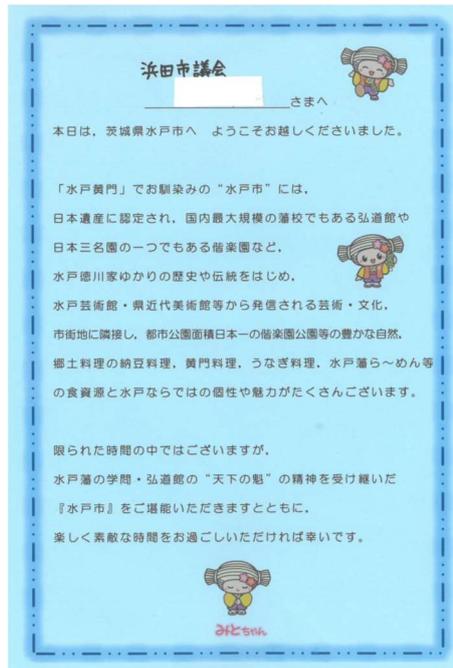
○. 所感

水戸市には観光協会ではなく、（一社）水戸コンベンション協会を設け、13名職員で運営している。この中に市の職員が2名派遣されている。特に協会は行政とのパイプが蜜でないとうまく連動、連携できないという理由であった。現在浜田市観光協会も市職員が出向しているが、このような市職員の必要性、公募など参考にして、今後の浜田市の観光協会の充実、活性化を推進していきたい。

水戸市は第6次総合計画に「戦略的観光の振興」を掲げ、多くの人交流するまちづくりに向け、「まち全体のおもてなしの向上」を目指して、外国人などにも対応できる「歴史アドバイザー水戸」のような観光ボランティアやNPOなど観光客をあたたかく迎える意識の醸成や受け入れ体制に取り組まれている。

「歴史アドバイザー水戸」は60歳代が多く、高齢化が進み、新入会員を募集するが歴史に興味がある人などハードルが高く感じられて、応募者も4、5人と少ない。しかし、「歴史アドバイザー水戸」の活動によって「殿様商売」的な水戸市の市民意識も変わりつつある。

16日の夕方、「プレジデントホテル水戸」着。それぞれの議員の部屋に「水戸の名水黄門さん」の水のペットボトル1本、そして浜田市議会議員様、「ようこそ水戸市に」のあいさつ文がテーブルの上に置かれていた。その後、ロビーに集合し、誰がこのようなおもてなしをしたのだろうか？ホテルに聞いてみると、「水戸市の職員さんが来て、置かれました」。水戸市のお客様に対する「想い」がしっかり感じ取れる最高のおもてなしを受けた私たちはこのような歓迎に感動した。



水戸市の歓迎の文書

オ. 水戸市公設市場について

卸売市場は、昭和 47 年に開設し、地域流通の拠点として、広く市民に生鮮食料品などを安定的・効率的に供給するという使命を担っている。

○水戸市公設地方卸売市場の概要

- ・ 開設者 水戸市
- ・ 卸売業者 青果部 (2 社) 水産部 (2 社) 花き部 (1 社)
- ・ 中卸業者 青果部 (6 社) 水産部 (18 社) 花き部 (2 社)
- ・ 関連業者 (18 社)
- ・ 総売り上げ 年間 800 億円

○説明内容

- ・ 東日本大震災後、放射能の問題で大混乱となり苦慮した。
- ・ 誰でも買える市場にし、個人買いも出来、24 時間市場が動いている。
- ・ 市場では、試食の提供をやっているのが好評。これは水戸独自のやり方なのでこれからも引き続き継続していく。
- ・ 市場のエリアは茨城県・福島・栃木県にも配送。商圏が広い。
市場の経費は、水戸市半分、業者半分の折半、そのためかゴミなど各業者が持ち帰るなどして大体うまく運営できている。(40 箇所くらいゴミ箱を置き監視もしている)
 - ・ 商品の 8 割以上がスーパー向け。また卸売 2 社が営業するも利益が少ない。
 - ・ 市場全体の総経費は 6 億円くらい。

○所感

茨城県は山がほとんどなく平坦な田畑などで大変広い。その中でも県都水戸市公設市場に集荷される水産物や農産物また食料品など大量の商品を扱っている。

水戸市公設市場の取り扱い金額が年間 800 億円と聞き、東証の株式に上場してもおかしくない規模の組織なので大変驚きました。市場内で食料品の試食の提供は浜田市内のお魚センター・市民サロン・ゆうひパークなど観光客が試食してお土産として買っていただけるような「試み」を全体にいきわたらせる様 実践してみることが重要だと感じた。



水戸市議会 議場にて



水戸市議会視察中